シンポジウム

古代ヤマト王権と尾道

青龍三年銘方格規矩四神鏡【重要文化財】
安満宮山古墳（高槻市）出土　卑弥呼を映した鏡

今城塚古墳（高槻市）
学術的に真の第26代継体天皇陵墓といわれている

平成30年

12月2日（日）

13:00～浄土寺研修道場

※イベント終了後、ご希望の方は浄土寺無料拝観いただけます

第一部
13:00～14:00

基調講演「ヤマト王権の船と水運」
―ヤマト王権から瀬戸内を俯瞰―

講　師　森田克行（考古学者、高槻市立今城塚古代歴史館特別館長）

第二部
14:10～15:30

パネルディスカッション「古代の尾道とヤマト王権」

パネリスト　小林暢善（国宝の寺 浄土寺住職）
児玉康兵（彫刻家、尾道市立大学名誉教授）

コメンテーター　森田克行（考古学者、高槻市立今城塚古代歴史館特別館長）
梅林信二（尾道市立美術館学芸員、「龍の國・尾道」展企画担当）

浄土寺

西國寺

千光寺

「尾道三山」の浄土寺、西國寺、千光寺が、対岸の岩屋山に向けて創建されている。

青龍くん

参加無料
定員100名
【要申込・先着順】

申込方法

お申込みは一般社団法人尾道観光協会まで、お電話、FAX、メールいずれかの方法にて
「参加イベント名」「代表お名前」「ご参加人数」「代表お電話番号」をお知らせください。

電話 0848-36-5495　FAX 0848-22-2201　Mail info@ononavi.jp

主催／一般社団法人尾道観光協会　協力／浄土寺、西國寺、千光寺　後援／尾道市、尾道商工会議所、尾道市立大学

尾道市制120周年

JAPAN HERITAGE 日本遺産

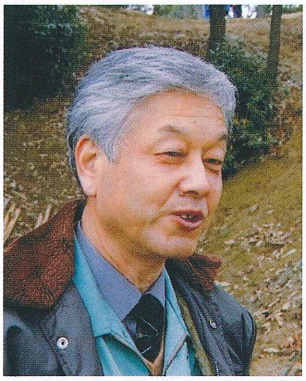
シンポジウム　古代ヤマト王権と尾道

【第一部】基調講演

「ヤマト王権の船と水運」―ヤマト王権から瀬戸内を俯瞰―

淀川北岸の高槻市を中心とした北摂津地域は近年の発掘調査により、古代史の謎に迫る重要な発見が相次いでいます。3世紀中頃の安満宮山古墳より出土した中国・魏の年号である青龍三年（235年）銘の方格規矩四神鏡もその一つです。魏は卑弥呼に対し「銅鏡百枚」など与えたと「魏志倭人伝」に記され、その実態に迫る画期的な発見です。

また、今城塚古墳は6世紀前半に築かれた、淀川流域最大の前方後円墳です。学術的には、第26代継体天皇（聖徳太子の直系の曾祖父）の真の陵墓といわれています。陵墓の発掘と復元を実現させた史跡公園『いましろ　大王の社』は、わが国初の快挙で、かけがえのない歴史遺産です。さらに、北摂山中にある阿武山古墳（7世紀後半）からは藤原鎌足（中臣鎌足）の遺骸とともに天智天皇から賜ったであろう、金糸で飾られた大織冠も棺の中に納められていました。これらはいずれもヤマト王権にとって、国内の統一、海外との交易、瀬戸内の制海権を支配した理由をかいま見ることができる発見といえます。



講　師

森田克行氏

考古学者、高槻市立今城塚古代歴史館特別館長、
今城塚古墳は学術的に継体天皇の真の陵墓とされ、その発掘を主導

専門分野
日本考古学（弥生集落、銅鐸、銅鏡、邪馬台国、天皇陵、埴輪、古代水運、近世城郭など）

略　歴

昭和25年 大阪府生
昭和49年 龍谷大学文学部史学科国史学専攻（考古学専修）卒業
昭和50年 高槻市教育委員会・高槻市立埋蔵文化財調査センター
昭和59年 日本考古学協会 会員
平成11年 龍谷大学非常勤講師《考古学概論》［平成14年3月まで］
平成12年 高槻市立埋蔵文化財調査センター 所長
平成18年 文化財課 課長、高槻市立しろあと歴史館 館長
平成22年 高槻市教育委員会・地域教育監
平成23年 高槻市立今城塚古代歴史館 館長
平成28年 今城塚古代歴史館 特別館長、藍野大学非常勤講師 現在に至る

古代水運関連著書

「今城塚古墳と筑紫津」
『大王の棺を運ぶ実験航海』
石棺文化研究会 2007

『三島と古代淀川水運Ⅰ・Ⅱ』
今城塚古代歴史館 2011

「史・資料にみる古代船」
『古墳時代の船と水運』
今城塚古代歴史館 2014

「水運王継体と磐井の乱」
『継体大王と筑紫君磐井』
今城塚古代歴史館 2016

【第二部】パネルディスカッション「古代の尾道とヤマト王権」

尾道は「中世以降の箱庭的都市」が文化庁の日本遺産（2015年）に認定された理由です。中世（平安末期の開港）以前より、尾道三山には浄土寺（616年）、西國寺（729年）、千光寺（806年）、艮神社（806年）、久保八幡神社（859年）等の寺社が創建されたと伝えられています。

小林暢善氏は浄土寺、聖徳太子創建説はヤマト王権の象徴として、吉備王國の最西端を押さえ、海人を配下に、内海の軍事、政治の秘密基地的拠点を尾道に造ったのではないかと想定しています。

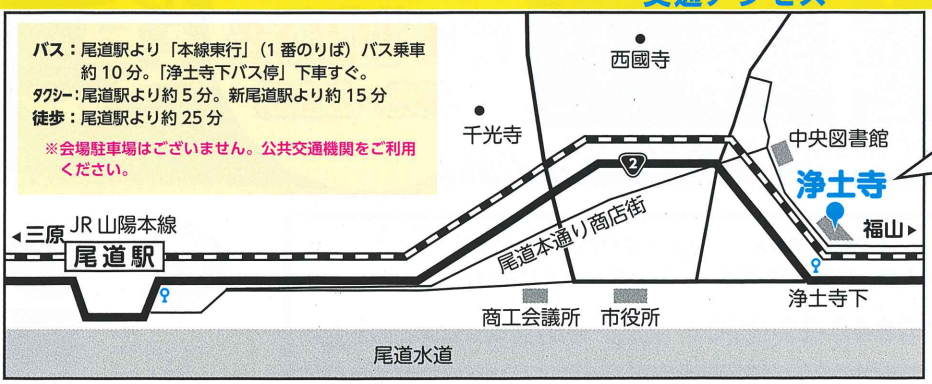
児玉康兵氏は1999年に尾道三山の、浄土寺、西国寺、千光寺が対岸の岩屋山に向けて創建されている事を発見し、風水都市研究者黄永融（大阪大学工学博士）氏と共に尾道を訪れ、中国、朝鮮半島から伝搬した陰陽思想により形成された都市である事が判明しました。また、663年の白村江の戦い（百済救援に向かったヤマト王権軍は、唐新羅軍と戦う）に敗れたヤマト王権は、尾道～今治間に瀬戸内にも国土防衛ラインを敷き唐新羅連合軍の進行に備えたと想定しました。その後、「四神相応」の吉相の地尾道に朝廷の庇護のもと、商人による港町が出来、寺社創建へと繋がったと想定しています。

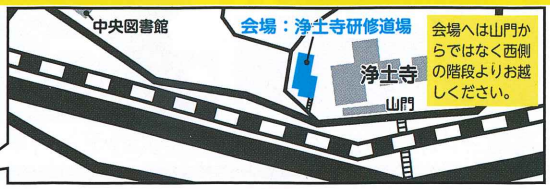
森田氏と梅林氏を交えパネリスト及び参加者を入れた討論会とし、今後の古代尾道研究及び、新たな観光客誘致へと繋げたいと思っております。

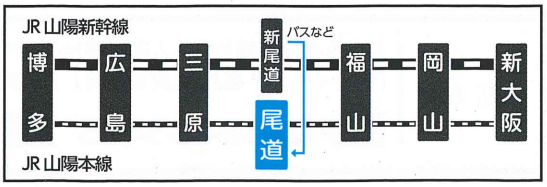
パネリスト
小林暢善氏　国宝の寺 浄土寺住職
児玉康兵氏　彫刻家 尾道市立大学名誉教授

コメンテーター
森田克行氏　考古学者 高槻市立今城塚古代歴史館特別館長
梅林信二氏　尾道市立美術館学芸員 「龍の國・尾道」展企画担当

交通アクセス







Designed by アライデザイン